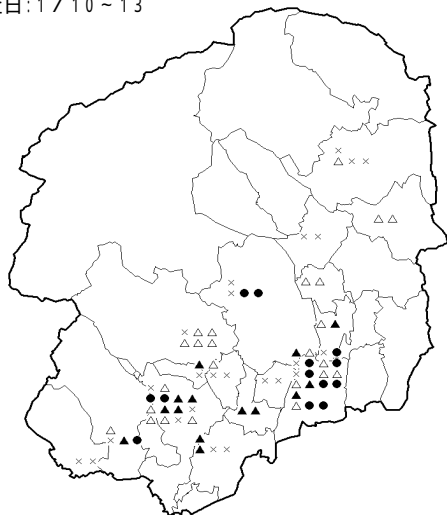


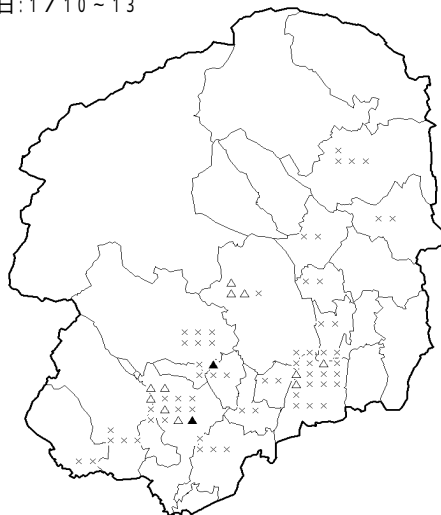
単位：%

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	6	4	13	11	3	51	17	0	6	8	総調査ほ場数：75か所 (アザミウマ類(花)調査ほ場数：24か所) 総調査株数：1,875株 (アザミウマ類(花)総調査花数：2,400花) (調査株数：1ほ場25株(アザミウマ類(花)調査花数：1ほ場100花))
	平均値	8.0	5.3	17.3	14.7	4.0	68.0	22.7	0.0	8.0	33.3	
	平年値	3.8	4.3	11.4	3.1	4.2	33.0	56.3	0.0	0.0	26.9	
	(平均値/平年値)×100	210.5	123.3	151.8	474.2	95.2	206.1	40.3	-	-	123.8	
株率	発生程度	多	平年並	やや多	多	平年並	多	やや少	少	-	前年並	アザミウマ類(花)の平年値は過去1年分のみ の値 今月の病害虫発生状況 ・ハダニ類の多発が続いており、葉の表面のかすり状の被害(写真1)も見られます。 ・うどんこ病の発生ほ場率が平年を上回りました。また、灰色かび病(写真2)も見られます。
	発生株数	2	1	16	3	3	592	22	0	13	19	
	平均値	0.1	0.1	0.9	0.2	0.2	31.6	1.2	0.0	0.7	0.8	
	平年値	0.2	0.2	0.6	0.1	0.4	9.8	12.1	0.0	0.0	0.6	
		(平均値/平年値)×100	50.0	50.0	150.0	200.0	50.0	322.4	9.9	-	-	133.3
発生程度		やや少	やや少	やや多	多	やや少	多	少	少	-	前年並	
概評		やや多	平年並	やや多	多	平年並	多	やや少	少		やや多	

ハダニ類発生状況(本ほ)
調査日：1/10~13



うどんこ病発生状況(本ほ)
調査日：1/10~13



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

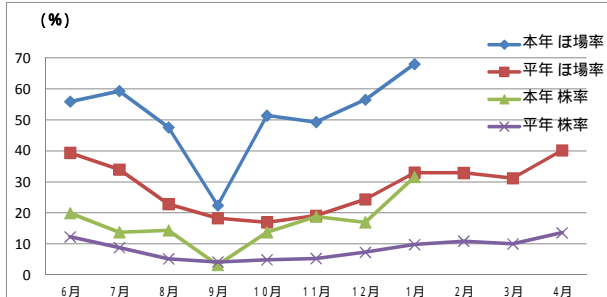


図1 ハダニ類発生ほ場率・株率

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

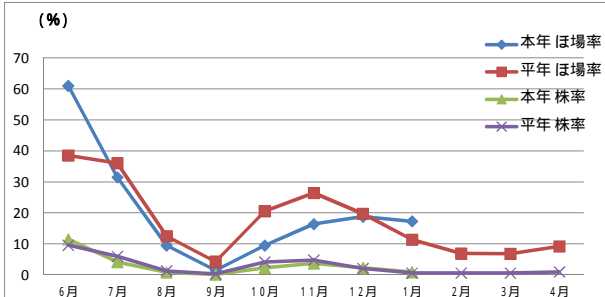


図2 うどんこ病発生ほ場率・株率



写真1 ハダニ類被害葉



写真2 灰色かび病

今月の技術情報(技術指導班) (1月)

昨年12月中旬から晴天日が多いため、病害は全般に少ないですが、うどんこ病の発生がやや多く、灰色かび病の発生も散見されます。また、害虫ではハダニ類の発生が多い状態が続いています。

2月以降は降水量が増え、多湿条件になりやすいこと、気温が上昇することなどから、病害虫が多発する恐れがあります。下葉かきなどの管理作業、ハウスの適正な温度管理や換気等により発生しにくい条件にすると共に、早めの薬剤防除等により被害を防止して下さい。

なお、温湿度管理を良くすることは、受粉用ミツバチの群を長く保つことにもつながります。

また、ハウスビニルの隙間はできるだけ無くすようにして保温効率を高め、省エネ化に努めましょう。